

ル、ニ、壯ナル者ハ、皆亂ヲサケテ、山林ニ逃竄レ候、我等疫病ヲ病候ニヨツテ、起ル事モ叶ハズシテ、敵ノ手ニ死ヲモ省ズ候ト云、氏綱憫テ其里ヲ侵サズ、一物ヲモ掠トラズ、藥ヲアタヘ食ヲ與ラレヌ、民大ニ悅ブ、是ヨリ衆人聞傳テ志ヲ歸ス、氏綱伊豆ヲ得ノ基トナル、

〔常山紀談二十三〕鮎延越前は最上義光の長臣、祿一萬五千石なり、最上の家亡て後、流落しけるに、もとより家人に慈愛深かりし人にて、士二十人附従ひ、各乞食して養はんといふ、土井大炊頭利勝五千石與へければ、二十人の士に五千石皆あたへて、各二百五十石なり、其身は二十人のもとに一日がはりに養はれて、一生を終れり、越前死すれば二十人の士大に愁傷して、一字を建立す、今下總の古河城下の鮎延寺これなり、

〔明良洪範四〕榊原康政嫡子遠江守康勝死去、實子有シカド、子細有テ隱セシ故家斷絶ニ及ントス、弟忠政大須賀ノ養子ナリシガ、養家ヲ捨テ實家ヲ繼グ、稱號ヲ給リテ松平式部大輔ト云、徳川家ノ士大將トナリ、播州姫路ヲ給リシ所、勝手甚不如意ナリシ故所持ノ名器ヲ賣レシ、其中ニ天下ニ沙汰セシ名物ノ茶入アリ、京極丹後守廣高望ミテ金一萬兩ニ買レケル、式部ハトテモ天下ニ恥ヲ晒ス上ハ、右一萬兩ヲ錢ニテ申受度ト望レシ故、江戸中ノ錢ヲ買入車數千輛ニ積送ラレシ、式部ハ是ヲ以總家士ヲ救ヒ、廣高ハ領内ノ民百姓ヲシエタゲテ、已ガ樂ミヲ極ム、其頃世上ノ評ニ、式部名器ヲ捨テ名ヲ天下ニ上シト云リ、

〔神宮續秘傳問答〕愚拙○度會幼童ノ比、小鳥ヲ取テ覗シニ、其悅不斜、其日漸薄暮ニ至テ、彼鳥籠ノ内ニ悲鳴シ籠ヨリ出ントスル體ヲ見テ、中心其悲ニ不堪、即時籠ノ口ヲ開テ放ヤリシヨリ懲テ、今年六十八歳マデ、家ニ小鳥ヲ不飼、マシテ殺生ヲ禁ズ、但シ出家ナドノ様ニ、一向不殺生ニシテ、盜鼠ヲモ不殺、死タル魚鳥ノ肉マデ食ハザルニハ非ズ、海魚マデモ、不決明榮螺蛤蜊ナドノ類ノ死タル肉ハ、食用ニ味惡ケレバ、客饗應ノ爲ニハ、不得已生タルヲ門内へ入侍レドモ、其外生タル